

第29回 軽井沢22世紀風土フォーラム基本会議

- 【日時】 令和4年8月30日（火） 19:00～20:40
- 【場所】 オンライン形式による開催（新型コロナ感染防止措置のため）
- 【出席者】 基本会議委員：石山武委員、稲葉俊郎委員、金山のぞみ委員、
鈴木幹一委員、袖山尚委員、福原未来委員、
鹿ノ戸彩委員、小出恵委員、三島勇委員、
（※丸橋昌太郎委員は都合により欠席）

内 容

1. 開 会

2. 議 事

【会長】

本日はお忙しい時間にも関わらずお集まりいただき感謝する。

前回の会議で軽井沢ブランドについての皆様の考えや向かうべき方向性もお伺いできたので、今回の基本会議では、住民のまちづくり参画の旗振り役として、まずは「1年目のゴールをどこに設定していくか」というところと、今期テーマの進め方について「何を具体化するべきか」について、皆様とグループセッションを交えながらチームごとにお話をさせていただきたいと思っている。チームは予め作ってあるので、この後5人ずつ2チームに分けてお話を進めさせていただきたいと思う。

まず、一つ目のテーマ「今期のテーマの進め方」について、今までの過去の風土フォーラム基本会議でも出ている、軽井沢ブランドについて住民の皆様のご意見などがまとまった資料を、先日、事務局から Slack の方にお送りいただいているが、そういったものも交えながら、どんなところをゴールに落とし込んでいくかというところをチームごとに分かれて話し合いをお願いしたい。私と副

会長で別々のチームに入り、まずは15分間の時間を取るので、グループの中で、話し合いをよろしくお願ひしたい。

《2つのグループに分かれ、同時にグループトークをスタート》

《グループ1のトーク内容は以下を参照》

《グループ2のトーク内容は8ページを参照》

<グループ1>

メンバー：【会長】【A委員】【B委員】【C委員】

【会長】

私は個人的には、「住民の意識の向上」というところが、軽井沢ブランドにとってまずは一番必要なのかなと思っている。住民一人ひとりの意識が向上すれば、それぞれでまちづくりのための団体ができる可能性もあるし、他にも（意識が高まれば）商店などで軽井沢ブランドに沿ったものが新しく作られていくといったことにも繋がるのかなと考えている。前回の会議でも意見が出ていたが、町民憲章をもとにして、住民の意識向上、そして、ブランド力の維持をしていければ良いのかなと考える。

【A委員】

基本会議の成り立ちから考えて、位置づけとしては今の【会長】のおっしゃったようなことで良いと思う。私自身は、基本会議がまちづくりを“住民主体”でやっているということ、今の軽井沢町の現状に対する問題意識がどこにあるとか、基本会議として（問題に対して）どのように考えているのかななどを提示しておくべきと考える。それから、そういうものに対して、基本会議は現状をどういうふうに認識して、それをどういうふうに持って行きたいのか、今の状況を踏まえた上での具体的なキーワードを出していきたいと思う。【会長】のおっしゃった通りで進め方はおそらくそう（住民意識の向上させる方向）だと思うが、今、軽井沢の中で、ここ数年間の町の変わりようや、実際に声として上がってきてい

る課題など、それらに対して、基本会議がどのような認識を持っているのかとかそういうことを少し議論した方が良いのかなと思う。そしてその先に何を議論していくべきか、今はまだ具体的にはわからないところはあるが、まずはそういった流れを考えている。

【会長】

そうなると、前回、住民参加型の会議を開催するという意見も出ていたが、そういったことよりも、まずはこの基本会議内のメンバーで、現状の課題やそれに対する考えをまとめていくということによろしいか。

【A委員】

住民参加型というのは、手法として非常に良いとは思いますが、どんな論点で、何を話し合っていくのだろうか、ということの基本会議としても少なからず打ち出しておく方が良いと考える。

【会長】

【B委員】 はいかがか。

【B委員】

先ほど**【A委員】**から出た意見は、私もその通りだと思う。

私には、軽井沢は「内から見た軽井沢」と「外から見た軽井沢」でイメージがかなり違う。私自身も軽井沢に住んでもう4年ぐらい経つが、当初イメージしていた軽井沢とずいぶん違ったなあと思っている。それはなぜかというと、外から来る人は自然環境や文化に憧れてきている人が多いと思うが、ずっと軽井沢に住んでいる人の多くは、別にそれら（自然環境や文化）は関心が薄いようで、（もともと軽井沢に住まわれている人と）話していると、どうしても話が合わないことがある。先ほどあった、住民参加型という形にしても、区にどれくらいの住民が加入しているかといえば、加入率は50%を下回ってしまっていると聞いている。その辺りを考えて、どういう論点でどういうふうを示していくと、より多くの住民の皆さんに関心を持ってもらえるかということ、関心はかなり分裂するの

ではないかと思う。なので、そこら辺の議論をどうするのかということを考えてい。

9月3日に開催される軽井沢町の環境を考えるワークショップに参加することになり、事前にいただいた資料を見ると、軽井沢の課題点が全て出ている。自然環境・生活環境・資源循環・脱炭素社会、参加と連携という課題があるとしている。それを見ると、この参加と連携というところについて、環境保全の取組への意識醸成がちょっと欠けている状況である。また「事業者、町民、別荘所有者、行政の連携の進化」があるということは、今時点でそういった連携も欠けてしまっているということだと思うが、そういった課題が出ているので、それらについて話し合う、住民参加型の試みを行うことが良いのではないか。なので、この環境のワークショップは非常に良い試みだなと思っていて、今回の基本会議でもそういった形でワークショップを開き、論点を深めていければ良いと考えている。

【会長】

今の【B委員】のお話は、今までに出た課題を、まずは基本会議のメンバー間で話し合った上で、住民会議の方で話し合う、ということか。

【B委員】

共通項をなるべく見つけ出して、それについては議論を深めて、住民の方にもその議論にどう加わっていただけるのか、仕組みも考えていった方が良いのかなと考えている。軽井沢にはいろいろな民間団体やNGO、NPOもあるが、自然環境や環境問題を扱っていても、みんな方向性がちょっと違っているような気がする。その辺りをどううまく繋げていくかというのも課題だと思っている。そうした意味でも、まず論点を整理したいというのは、【A委員】と同じである。

【会長】

【C委員】はいかがか。

【C委員】

皆さんのおっしゃることはその通りだと思う。しかし、やや暴論のような感じになってしまうが、テーマは問わないと思っていて、あまり風呂敷を広げすぎず、基本会議自体も既に第4期まで来ているので、前回の会議でも話にあったが、「この課題に対して、こういうことができた、もしくは何かしらの提案を出せた」という、きちんとしたゴールの見える規模の何かをやりたいという漠然ではあるがそうした思いがある。やはり人それぞれ理念というのがあると思うし、理想はいくらでも語れるとは思いますが、バックグラウンドのしっかりとされている委員がせっかくこの基本会議の場に集まっているので、その課題に、この2年間なり1年間のうちに、それが例えば自然環境が急に良くなることはないと思うが、例えば「こういうことをすれば環境が良くなるよ」など、専門家も招いたセミナーを住民参加で開催するような場を作るとか、何かそういう一つの具体的な解決方法が、この基本会議の委員にも、住民、町民にも心に残るような、何か一つの解決できる規模のゴールを見つけたいなというのが、前回の会議からすごく思っているところである。それが具体的に何なのかというところは、私自身も結論は出ていないが、基本会議は第3期までにわたって錚々たるメンバーの方が、かなりの時間をかけていろいろなことをやられているので、そういった過去の内容と、今【B委員】がおっしゃっていたような、住民会議などで出ているような課題の“公約数”という部分、そういったところから導き出して、かつ、ゴールを導き出せそうな部分というのを、落としどころとして見つければ良いなあというのが、漠然としているが、私の考えである。

正直なところ、恥ずかしながら今回の基本会議に参加するまでに、(基本会議で)このように真剣に考えられている場があるということを知らなかったのも、この基本会議自体のことも、もう少しわかりやすく、楽しく発信できたら良いなと個人的には思っている。すごく丁寧にまとめていただいているので、大変恐縮ではあるが、ずっと文字が並んでいるものを見ても、いかにも“町の資料”という感じで、それを「よく会議議事録を読んでもらってください」といっても、どこまでの人がちゃんと読んでいるのかなという気もしてしまう。基本会議ではすごく良いことを話しているし、そのために実際に時間を割いて参加しているわけもあるので、そういった良さや大切さがもう少し何か楽しい形の広報ということ

で、Web サイトなども、もう少し見て楽しく伝わるようなものに出来ればと考える。この会議で話されている過程自体も、もちろん公の場ではあるので守秘義務があると思うが、会議の議論の過程も報告できたら良いのではないかなと思っている。

【会長】

このグループの考えとしては基本的に一致していて、まずは今までの過去3期までに出た課題などを整理して、基本会議としての考えをまずは打ち出す、というところが1年目のゴールということで良いか。

あとは今【C委員】がおっしゃったように、まずはこの風土フォーラム基本会議についても、知ってもらう機会をどんどん増やしていけたら良いと思う。やはり皆さんやっていることは本当に素晴らしいし、私達の会議がまたその一歩外に出てどんどん波及していくことで、住民を巻き込んで、旗振り役として活動していくことが目的の一つでもあると思うので、ぜひそれ（基本会議の活動の周知方法）についてもまた別の形で話し合いを進めていきたい。プロジェクトチーム（のミッション）にして、「広報プロジェクトチーム」みたいな形にしても良いかも知れない。

【A委員】

【会長】がおっしゃったように、まず今、基本会議でのそういう論点をまとめることを行って、大事なのはその先である。基本会議は2年間あるので、そういった議論したことが形になることが重要で、議論自体は終わってなくても良いと思う。何かの具体的な、今【C委員】のおっしゃったように、何か“形”というか、別に“形”そのものを求めているわけではないが、何か具体的なものを計画するなり、何か開催するなり、そういうことをすることによって、議論ももっと深まるし、それは町民・住民の方々から見ても、一つわかりやすい発信にもなると思う。1年目でそういった議論をした上で、2年目ではワークショップでも良いし、何かイベント的なものが非常にわかりやすく、気軽に参加できるものを具体的な目標として設定すると良いのかなと思う。エリアデザインでも、去年コロナで一度中止になってしまったが、駅前でのイベントが実施された。準備する

にはいろいろ大変なこともあるが、そういった気軽に参加できるようなものを計画して、基本会議の大きな流れの中の一つとして実施すると、具体的にまた議論が深まっていくのかなという気がした。

【会長】

硬いワークショップではなく、そういったバル形式も取り入れながら、皆さんから気軽に意見をお伺いできる機会は非常に良いかと思う。

やはり基本会議の中で話し合っていくとしても、何かテーマを絞った方がいいかと思う。先ほど【B委員】は自然環境のことをおっしゃっていたが、他に何か皆様が思う「ここを特に話し合いたい」という課題はあるか。

【C委員】

私もやはり自然環境は直近のテーマかと思っていて、社会的にもそのような流れである。自身が移住者であり、移住者が森を壊しているという自責の念があり、それでも「町を愛する気持ちは本当なんです」というのを、自分のエクスキューズではないが、そこは何か両立して幸せに暮らしていきたいという思いもある。やはりそういったことを考えていらっしゃる方の話を聞く機会も結構あるので、実際、木を無計画に切りすぎて地盤が危うくなっているところとかあるなど近々の土木問題としてもあるし、やはり緑に憧れて軽井沢に来る方が、パワーショベルで森が切り開かれているところを見て「思ったのと違う」となるなど、感情の問題もあると思うが、緑と動物と共生しながら、森も経済もきちんと守っていくということがテーマだと考えている。今回の軽井沢ブランドというテーマのゴールをどこに置くかというのと似ていて、決まった答えはない話になると思うが、「(緑や動物との) 共生のあり方」というテーマで何か一つ、提言できたら、安心される住民の方は多いのではないかなと思っている。そうすれば、罪悪感を持つことなく、「生活はしているけれど、それは自然を壊しているわけではなく未来の緑を作っているんだ」と思える方向に何かうまく持っていく生き方を自分自身がすごく知りたいなと思っているので、私個人としてはそういうテーマに今すごく関心があるし、何かしら響く人が多いのではないかなと思う。

《グループ1のトークは以上で一旦終了》

＜グループ2＞

メンバー：【副会長】【D委員】【E委員】【F委員】【G委員】（ファシリテーター）

【副会長】

こちらのグループセッションでは、今季テーマ「軽井沢ブランドの持続と進化」の進め方について順番にご意見を頂戴して、最後残った時間を調整しつつ私も意見を述べさせていただきたいと思う。時間が15分とのことで、それぞれ3分程度でお願いしたい。

【D委員】

軽井沢に限らず、現代の問題は共助・互助の場が欠けているということだ。自助という自分の責任でやりましょう、公助という国や自治的な公的機関に助けを借りましょう、という二極に分かれていて、対立的な場が多すぎると考えている。以前は、農業や稲作の過程で、自然な共助・互助が生まれていたが、時代の変化と共に専門分化が激しくなり、現代の共助・互助の場を再生する岐路に立っていると考える。共助や互助の哲学を中心にしながら、人々が広く出会い対話できる場として「軽井沢芸術祭」を町民主導で行うことを提案したい。芸術と言っても高尚なものではなく、わたしたちが新しい価値観を創造するための場である。森林の保全の問題、自動車渋滞の問題、町民間での意見の対立など、そうしたことを共に考え、共助や互助の意識を高める手段としての芸術祭であれば、意義が大きいと考える。軽井沢の歴史や風土ともあっていると考える。

【E委員】

ブランドについては、いろんな場で軽井沢のブランドは何かと考えることが多いが、よくあるのは「自然環境の良さ」である。しかし、自然環境の良いエリアは全国にたくさんあり、そこにフォーカスするより軽井沢ならではの部分にフォーカスしたほうが良いのではないだろうか。【D委員】のおっしゃった「共助」が大事な要素だと思う。軽井沢の特徴としては、ソーシャルキャピタルが高

いという特徴がある。軽井沢では、明治時代から万平ホテルや三笠ホテルで当時の政財界の人たちが交流しディスカッションして、新しいことを創造してきた。それが、別荘文化に進化した歴史がある。このように軽井沢では人と人が交流して新しい価値を生み出してきた全国的にも大変稀有な場所と言えるだろう。この辺りが軽井沢の将来ビジョンの重要になるポイントだと思う。軽井沢には、人々が寛容性を持ち、互いを尊重して学びあう風土が自然と根付いている。また、面積的に小さな軽井沢に多種多様な人々が交わり、セレンディピティな出会いも多く生まれる。そのような軽井沢ならではの特性を前面に打ち出していくために、どうやってエッジの効いたコンセプトをつくれるか、会長、副会長の手腕にかかっている。

【G委員】（ファシリテーター）

（共助互助がないのが課題という【D委員】の意見のように、）私の課題が私たちの課題になっていくような仲間集めの活動が町に起こってくれば良いと思う。実際に今この場で「芸術」という言葉が【D委員】から出て、それに【F委員】が反応されて、といったそういう流れが良いのだと思う。一方で、地域の皆さんが引かかるポイントはそれぞれにあると思う。いろんな立場や意見の方がいて、みんなが話し合う場を創出した方が良いと考える。方向性を定めてしまうと、それありきでそれをまとめてしまおうとなってしまうので、（話し合う場としての）風呂敷を広げておけば、興味や関心に基づいたグループなりが自ずと生まれてくるのかなと思う。一年目は（これまでの基本会議と）同じようになってしまってもったいないが、工夫して皆さんに基本会議として地域の方に「軽井沢ブランドとは何か」を聴く機会を設けたいと思う。

【副会長】

共助・互助が大切だと思う。そういう繋がりや出会いの中で新しいものが生まれるし、意識改革も起こると思う。ただし、無関心の方をどのように取り込むかが課題である。来てもらえない方にこそ手を差し伸べることが大事であると思う。芸術祭というのは本当に良いと思う。ぜひ開催したい。

【F委員】

【G委員】がおっしゃったような「(住民の) 声を聴く」ということに対して何か仕掛けが必要だと思う。芸術祭などのイベントをやってみると、おそらくいろんな意見が出ると思うが、それらの意見をどのようにすくうのか、その仕掛けを具体的な動きとして見せていくことが必要だと思う。単なる議論の場も重要だが、それだけでないという意味である。

【副会長】

集まる場の提供は必要だと思う。無関心層へのアプローチは一回目の会議でも出たと思う。可能であれば、(本当の意味での) 全員が軽井沢のことを考えられるように向いていくのが良い。

【F委員】

見に行かなくても出会うという形であれば、アートという形はとても良いと思う。

【E委員】

町民全員参加というのは重要であり理想であるが、どのような組織でもかならず無関心層がいる。無関心層へのアプローチはとても大事な事であるが、全員に関心を持ってもらうことは至難の業である。そこで情報や機会は均等にしたうえで、関心のあるテーマに集まってもらいディスカッションすることは重要だ。その中で【D委員】が提唱されたアートはとても良いと思う。目に見えるように具現化することや感動を共有することは多くの人の共感を得るだろう。

【D委員】

そうした(普段あまり町と関わりを持っていないような層の) 人々の取りこぼしを解決するための芸術祭が良いと思っている。地元の人にも、別荘の人にも、観光客の人にも、訴えかけることのできる形に工夫すればできると思っている。声の大きい人の意見だけではなく、しっかりと 100 年後の軽井沢の未来を考えながら、共助・互助の場を創造しようとしている軽井沢に縁のある人にアーティストとして登壇していただければ良いと思う。

【副会長】

全員が全員というのは無理であり、合理的でないことはごもっともであるのだが、将来活躍できるような人材が（町に関心を持つことなく）失われていくのがもったいないと感じている。子どもたちは軽井沢に対して本当に関心がない。そこへのアプローチも考えての先ほどの意見である。

《グループ2のトークは以上で一旦終了》

《グループトークを終え、全員がトークルームに集合》

【会長】

少し時間が足りなかったようなので、時間5分ほど延長させていただいた。今、事務局で、ウェブ上の付箋機能にまとめていただいているので、それを使いながらまとめていくが、【副会長】よりグループ2の話し合い内容について発表していただいても良いか。

【副会長】

グループ2では共助・互助の場を作ることが大切だという意見があった。そこに対して、皆さんご賛同いただいたのかなと思う。その共助・互助の場を作るといことで、今期で出来るのかという懸念はあるが、芸術祭の開催をぜひ実現したいという意見が出た。この軽井沢には、プレーヤーもコンテンツも揃っている場であるし、軽井沢だからこそできる、軽井沢の要素を取り入れた芸術祭、そこでの出会いがまた新たな学びであったり気づきであったり、その場でお互いを尊重しながら、軽井沢はソーシャルキャピタルが充実しているので、セレンディピティなものも含めて、共助の場になれば良いかなという意見があった。

【会長】

グループ1では、今まで過去3期に出た課題等を踏まえながら、まずはこの基

本会議のメンバーの中で、課題を整理して考えを打ち出していくことが先決なのではないかという意見が出た。今期は2年間の構成となっているので、まずは1年目で基本会議のメンバーの中での意見を打ち出してみて、2年目では、例えば、新軽井沢エリアデザインで行っていたようなバルのようなものを使いながら、住民の皆様も巻き込んだイベントで、もう少し何かポップな形で、我々の基本会議のこと自体ももう少しいろんな方に知っていただけるようなイベントも含めて、住民の方を巻き込んでいけるものを行っていただけたらどうかという意見が出てまとまった。

今回の会議は、本当は皆様にご案内を流した通り、リアル（対面）開催で考えていたが、長野県から（新型コロナウイルス感染症の）BA5の対策宣言が出されたこともあり、オンライン開催とさせていただいている。その都合もあり、進行が少々バタついてしまい大変恐縮ではあるが、今しばらくお待ちいただきたい。

Jamboard（付箋型表示アプリ）の内容整理ができれば、【G委員】にてファシリテーターを務めていただき、まとめを進めていただければと思う。

【G委員】（ファシリテーター）

グループ1と2で、方向性が割れたように思うが、どちらにするのか。あるいは何か第三の道を探っていくのかというふうになると思うが、いかがか。

【A委員】

グループ1と2で（方向性が）割れたというような見方もあるが、私自身は大きな方向は一緒であると思う。例えば、あるテーマをもとに、何かしらのイベントのような、具体的には芸術祭のようなものを開くとか、それとわれわれのグループ1では、議論の後に何か具体的な催し、バルといった話もでたが、芸術祭の開催も同じことだと思う。そういった具体的なものに繋げて行って、そこでさらに議論を深めていくということが大きな方向性だと思う。そこは、多分（グループ1も2）一緒かなと思う。

【会長】

今【A委員】がおっしゃった通り、まさにその通りで、そこに加えて、グループ1で出た意見だが、今まで（第3期まで）に出た課題を、基本会議の中で整理した上でイベントを行ったらどうかという意見が出ていたというところが大きな違いかと思う。

【副会長】

グループ2も基本的なところは一緒に、みんなで聞く場だとか考える場を創出して、そこで「軽井沢ブランドの持続と進化」について考える機会を住民の皆さんに提供していくという考え方では一緒だと思う。ぜひ第1期から第3期のそれぞれの報告や検証されたものもあると思うので、それらも生かされた上で進めていければ、不連続の連続に繋がっていくのかなと思う。

【会長】

今チャットに、ホワイトボードのようなものを共有させていただいているが、各自確認できるか。

やはり、芸術祭を行うとしてもまずは、どこの部分を重点的に進めていくのかといった課題を私達の中で定めていくことが先決なのかなという印象である。もし、何かこの皆様の両方のグループの意見を踏まえた上で、ご意見があればぜひお願いしたい。どちらのグループも皆さん大体のご意見は共通しているという認識でよろしいか。

【F委員】

一つ質問しても良いか。我々が参加している風土フォーラム自体を町に発信して、皆がまちづくりを意識するようなきっかけにしたいという方向性なのか。あるいは町自体、町全体が動き始めることを仕掛けて「それ（仕掛け）をやっていたのが、風土フォーラムだったのか」となって皆が参加し始めるという方向性は、それぞれ似ているようで似てないなと思っている。

私の中での芸術祭というアイデアは、どちらかということ、風土フォーラムの後に気付いても良くて、「町の人たちがいろんな動きを始めるきっかけを作る」

という感じがしている。議論をしてからバルを行うという方向性だと、「風土フォーラムでこういうことを考えてきました」「そういう場を作りました」といった中で住民が関わると、風土フォーラムが動いていることを知るという方向性かなと思ったのだが、どちらになるかで、それぞれだいぶ違うかなと思った。

【会長】

我々のグループ1の中でも、「基本会議のことを知ってもらう」というのはあくまで住民の皆様がまち作りに参加するきっかけの一つに過ぎないので、まさに【F委員】のおっしゃった通り、イベントはあくまできっかけであり、風土フォーラムということは後からついてくればよいという考え方である。とは言え、イベントを開催するにしても目的を決めるときには、まずは軽井沢ブランドの課題を決めておかないと、どういったイベントを開催したら良いのかといったことも定まらなくなってしまうので、まずはその辺りを基本会議のメンバーの中で話し合ったらどうかということである。例えば、自然環境にフォーカスするのか、はたまた何か別のことにフォーカスするのかということである。

【F委員】

その（フォーカス先の）話し合いを住民と交えて行うのが、ワークショップということになるのか。

【会長】

ワークショップというのは、あくまで今出てきている案という段階なので、今回の皆様のご意見をいただいた上で、「まずは基本会議のメンバーの中で、フォーカスすべき課題を決めた方がよい」ということになれば、住民会議はもっと先の話になってきて、まずはこの中での議論が先行していく形になる。

【F委員】

そうすると、「（フォーカスする課題についての）議論をすべきかどうか」について、議論した方がよいのか。

【G委員】（ファシリテーター）

私がお二人（【会長】と【F委員】）の話を聞いたところによると、「やってみて考えよう」なのか、「考えてみてやってみよう」なのか、どちらの順番が良いのかというような部分について、（成したいことの）根本は同じだとしてもちょっと違っている部分なのかなっていうところである。

私が参加させていただいたグループ2では、まず芸術祭というものをみんなで参加できるような形でやってみて、それにいろんな方が参加することによって、いろんな人の意見を聞いていこうというような意見であったと思う。

【会長】

そうすると、われわれのグループ1とはまた違った視点ということになる。グループ1では、まずは基本会議の中で課題を話し合った上で、2年目で住民の方々を交えたイベントを行っていくといった方向性だったので、そうするとまずはそのどちらの方が良いのかというところを皆さんで話し合っ決めていけたら良いと思う。

【F委員】

それは私としてはすごくありがたい。議論の場も開いていくと良いなということが、この町に来てすごく感じていることであり、「議論をさせて貰えないから、じゃあいいや」みたいになっている人も、一部いるのではないかなということを感じている。特に移住者の方は、もともと自分たちはその土地のものではないという感覚で来ているので、議論に入れて貰えないという事態が生じた段階で諦めてしまっているのはすごく勿体ないと思う。しかし、もしかするとそういった面はお互いにあって、元々軽井沢にお住まいの方は、「移住者が移住者同士で固まって何か新しいことを始めているから、俺たちの意見なんか聞いてくれないんだな」みたいなことが起こっているのではないかなと思う。なので、議論の場さえ広げたり開いたりといった仕掛けをしたいということで、何かこだわりを一つ絞れば決まるかなと思ったので、ぜひやりたいなと思った。何かそういう仕掛けを作るということがまずは大事かなと考えている。

【会長】

その部分についてはどちらのグループも考えは一致しているかと思う。グループ1でも、風土フォーラム基本会議の議事録についても、かしこまった文章だけで記載されていると、なかなか一部の方にしか届かないような内容であったりするので、もう少しポップにしてみたり、例えばイベントもバル形式にして、皆様から気軽にご意見がいただけるようなイベントを行っていったら良いというところは、考えの向きとしては一致している。

他の皆様はいかがか。まずはイベントのようなものを行った方が良いのか、それともイベントをやるにあたって、まずは課題を整理して、どこに向けてのイベントを行った方が良いのか考えるのか。

【E委員】

芸術というのは非常に幅が広くて、今で言うと「リベラルアーツ」という大きな括りになると思う。軽井沢は、歴史的に明治時代から文豪は軽井沢に来て創作活動をしていたわけで、歴史的にも芸術と接点が多というのが特徴だ。新しいことをする場合、幅広くディスカッションして進めていくことはとても重要だ。ただ、既に第1期、2期、3期と6年にわたり、無関心層にも興味を持っていただくよう様々な事を行ってきた。課題の整理もかなりの時間を費やして様々な角度から議論してきた。委員会は連続性を持つことはとても重要だ。7年目の今こそ、より具体的アクションを起こすべきであろう。

【会長】

そうすると、軽井沢の持っている課題についてどこを具体化していくのかということについては、どのように扱うか。

【E委員】

例えば、豊かな自然環境にフォーカスした場合、明治時代の軽井沢は草原で牧場が点在していた。その後人工的に植栽して今の緑あふれる軽井沢になっている。軽井沢の自然環境は、150年で大きく変化した。自然にフォーカスすることはとても重要だが、草原から森まで幅広く、今後は森の維持管理対策の視点も出

て来るだろう。一方で移住者、別荘の増加という現状もある。自然環境保護とルールに則った新しい開発、トレードオフの事を委員会で議論し統一見解を出すことは相当の時間がかかるだろう。

軽井沢の歴史を紐解くと、明治時代から多くの文豪、画家、音楽家などが多く軽井沢に集まり創作活動していた。軽井沢には芸術関連の施設が多い。その辺を鑑みながら、町民の皆さんが共創して新しいものを生み出すことが出来たら素晴らしい。そのような機会をいかにつくるかというところの方が、第4期としては重要ではないだろうか。町民の方々が共に考え、感動することが出来れば、素晴らしい町制100周年になるのではないだろうか。

【会長】

何かの課題にフォーカスしていく、ということではなく、芸術祭というツールを通して、軽井沢のブランド力を上げていくということか。

【E委員】

第1期から第3期までの幅広い様々な議論を踏まえた上で、第4期は新しいステージに入るべきだ。皆が共創して新しいものを作り上げていく、それがブランドに繋がるだろう。

【D委員】

私も風土フォーラムの今までの内容を見ていて、「具体的なところに落ちていない」というところが、傍から見ても、やはりそこが一番の課題かなと思う。そういう意味では具体的な場に落とす、ということを見ると、もちろんそれは音楽祭でも良いし、演劇祭でも良いし、スポーツ祭でも良いのかも知れないが、私は芸術祭が一番フィットしているかなと思ったので、そういうテーマ、そういう場をまず作りたい。例えば、その中の分科会というか、何本柱かの中で、例えば自然環境というテーマがあれば、それを芸術祭で扱うとどうなるかという中で、そういう人たちが集まる。例えば、車の渋滞問題というのをどういうふうに美しく解決するかみたいな分科会の中では、自転車とか馬とかそういうテーマが出てくるかも知れない。私はそういうような場でみんなが何か知恵を絞るよ

うな、まず場を作るというのが一番良いのかなと思っている。そういう意味で、芸術祭という言葉挙げた。私自身、山形ビエンナーレという芸術祭の芸術監督を2020年、2022年に拝命していることもあり、世界中の芸術祭の知見はあるが、軽井沢にないことが不思議なくらいである。例えば、教育に特化した芸術祭もあり得る。芸術教育に焦点を当てることで、子どももお年寄りの方も共に学び合える場になるのではないだろうか。芸術祭をするにしても、野外のような軽井沢の特色を出していくことで、軽井沢でしか実現できない素晴らしい場になると考えている。

【会長】

【A委員】、【B委員】、【C委員】、こちらグループで今、グループ2から出た意見について、何かご意見があればぜひお願いしたい。

【A委員】

私も冒頭に申し上げたように、今、【D委員】もおっしゃったように、やはり何か具体化するというのを、この期のテーマ、いわゆる目標の一つだと思う。議論が先か、具体化しないか、ということもあるのだが、やはり何かを企画して実行するという事は、その実現へ持っていくための相当な議論が必要になってくると思う。コンセプトも必要であろうし、それが芸術祭だとしても、そこにはテーマが何か必要で、軽井沢町の根本的な課題とか、目指すところについて十分な議論した上での具体的な形として芸術祭が出てくるとかそういった流れだと思う。(芸術祭以外に)他のものがあるかも知れないが、そういった進め方になると思う。私もグループトークでも言ったのだが、基本的には具体的に何かをやるということをまず決めて、そこに向かってコンセプトや打ち出したいところを議論して、形にしていくという進め方がわかりやすいと思う。

【会長】

基本的に皆さん何かイベントを行うということでは一致しているので、イベントをまずは行うという方向性で、再度、各グループにお戻しして、イベントについての詳細、例えば、開催時期はいつ頃にするか、どのようなステップを踏ん

でいくのか、といったことについて再度話し合っていた方が良いと思う。そういったことを話し合う中で、例えば今、【A委員】がおっしゃったように、どこの部分の課題にフォーカスしていった方が良い、といったところも話し合いを進める中で、多少なりとも明確化していくのかなと思うが、皆様いかがか。

【G委員】（ファシリテーター）

今の共有を踏まえて、互いに感じあったことを、改めて15分間、各グループの中で少し具体的なところを話し合っていたかどうかというように形で良いか。

【会長】

では、また同じチームにて、15分間で話し合いをお願いしたい。

《2つのグループに分かれ、同時に改めてのグループトークをスタート》

《グループ1のトークは以下を参照》

《グループ2のトークは26ページを参照》

<グループ1>

メンバー：【会長】【A委員】【B委員】【C委員】

【会長】

基本的に皆さんイベントを開催するという方向性では一致しているので、そのイベントについてお話を少しずつ進めさせていただければと思うのだが、皆様のイメージとして、グループ2では芸術祭のような何か芸術を取り入れたものという意見があった。何かその他皆様がイメージしているものなどあるか。

【B委員】

先ほどの芸術祭という提言をいただいて考えてみたのだが、今日いただいた基本会議の資料の8ページに「基本会議の位置づけとまちづくりへの住民参加の促進と参画意識の活性化」という項目があって、無関心層へのアプローチとい

うふうに書いてある。そういう（アプローチしていくという）面では芸術祭のようなものは非常に関心と呼ぶのではないかなと思う。しかし、まちづくりにどのように住民の関心に向けていくかということになると、かなり工夫をしていかないと、ただイベントに参加して楽しかった、良かったね、ということで終わってしまう可能性が高いのではないか。

それと、自然環境について、「議論するには幅が広く難しい」という話であったが、そんなことはなくて、軽井沢の歴史を振り返れば、草原みたいな地域から、別荘文化というものが生まれて、人間にとっても野生生物にとっても良好な自然環境（たとえば「緑豊かな森」）が誕生してきたということは、すぐわかる話であって、そういうところから議論すれば何も問題はないのではないかと私は思った。

【C委員】

何か具体的なことを実施するということには大賛成であるし、芸術祭という方向も良いと思うが、結構壮大な感じがしていて、（芸術祭に）誰を呼ぶのかとか、芸術家とか呼ぶのかといった、イベント的な仕事を我々が行うということになってくると、そのようなことまで我々が行うようなイメージが正直なところあまり見えてない。基本会議の委員とは果たしてそういう仕事であったのであろうか、というやや戸惑いのような部分がある。しかし、楽しそうではあり実施すること自体は賛成なのだが、我々がどれだけ、どのように関わるのか、ということが私の経験上では見えていない。例えば、予算関連の話もあるし、芸術ということについては例えば、自然をイメージしたまちづくりを小模型でという形で表現したり、それを演劇にしたりなど、本当に夢は広がる一方で、そういうことは私自身は大好きなのでワクワクはしているが、どの規模でやっていくのかということが見えていない。今、【B委員】がおっしゃった通り、最終的には町の生活がいろんな意味で良くなっていくというところに繋がったら良いなと思うので、何かそういったポイントを芸術祭という形でどれだけ現実出来るのかなということが知りたい。また、そういったことをやるということを提言した上で他のイベントとかに頼むのか、この実行委員自体に我々になって1年以内にそれを実行するということになるのか、その辺りが私には全く今見えてい

ない。素敵な案だとは思いますが、果たしてそれが本当に具体的な案なのかというのが、正直な感覚である。アイデア自体は本当とても素晴らしいと思うので、そういうのをぜひやってみようという方向に持っていくのは良いと思う。しかし、このまま進めていくと、「我々はイベンターです」という感じになってくるのではないかなという感じがしている。あとは町の予算のことも全然わからない。例えば書道家さんと呼んで“自然”とか書いてもらうとか、そういうことだよというような、何かまだ今は具体案が正直出しづらい。全体の規模感が分かってくれば、こういうことをやりたいなど何か具体的なことを言えるかなと思う。

【会長】

【E委員】がおっしゃるように、まずはやってみてというのもわかるが、整理してから行った方が良いような気がする。

【A委員】

何かをやってみて、そこでいろんな議論をしていこうということで、そこでやるために何かいろんなことを議論していこうというふうな方向で、グループ1も2も共通はしていると思う。

芸術祭という話になっているが、皆さんがおっしゃるように、芸術祭というと多分相当に幅が広い話だと思う。なので、その辺りのイメージを、例えば具体的に何をしましょうかという議論の中で、逆にアイデアを出してもらえば良いのではないかな。音楽祭があるかもしれないし、シンポジウムとかでは面白くなってしまうかも知れないが、何かを持ち寄ってやるとか、音楽も一つの芸術じゃないですかねとか、文化的なイベントとか。いずれにしても何かそこは具体的に何やりましょうかというところのアイデアを今日は出ないかも知れないが、皆さんでいろいろ出せば良いのではないかなと思う。そこである程度の方向性が出れば、そこに向かって、さきほど言ったような軽井沢の抱えている課題とかそういうのをイベントのコンセプトにしていくとか、そういうところで計画の中身をきちんと裏付けていくような進め方が良いのかなと思う。芸術祭というものに対してどんなイメージなのか、音楽なのか、それとも美術なのか、演劇も

そうであるし、芸術といってもいろんなものがある。もう少しアイデアを考えるべきかと思う。今日は2回目の基本会議であるので、次回会議でそういうことを決めていくなどするのはいかがか。アイデアはどんどん出していった方が良いと思う。

【B委員】

この基本会議でイベントをやろうとした場合に、実際にそんなに（大きな規模のイベントを実施するに足りる金額の）予算が付けられるか、そのあたりを少し老婆心ながら聞きたいのだが、いかがか。

【事務局】

来年度の予算については今、計画を立てている段階なので、もし来年度に何かを実施するのであれば、今の段階である程度のことは決めていただく必要がある。もちろんイベントなどの実施自体が駄目ということではなく、基本会議の議論の中で「こういうことを来年度やりたい」ということがまとまれば、予算計上は可能になる。議会での可決の流れはあると思うが、予算要求はできる。「軽井沢ブランド」という今期のテーマに沿ったもので、これからも軽井沢が軽井沢であるためにこういうものが新しいコンテンツとして必要なのだ、ということが説明できれば、認められるものだと思う。住民の皆さんが考えたものでということになってくると、もちろん町の予算だけではなく、他にも資金調達の方法はいろいろあるかと思う。その辺りはアイデアの出しようによって出来るかと思う。町の予算としては、今の段階で方向性や予算が決まってないと、その先が進めにくいという事情がある。

【B委員】

G7外相会議の開催があるかも知れない（※基本会議の翌日8/31に開催が正式決定発表された）と思うのですが、それに合わせて芸術祭を実施できないか。

【事務局】

どちらかというと、来年であれば100周年記念式典が8月にあるので、そち

らに合わせる方が、住民の皆さんに話を持っていきやすいと思う。外相会合という、その開催にあたっては住民の皆さんの生活を若干抑えてしまう（交通規制などの）部分があると思うので、町制 100 周年記念イベントが来年あることを踏まえると、その中において住民発意で住民の皆さんが中心になってこういう企画やりました、となるのはありだと思う。そんな方向も一つ良いと思う。

【B 委員】

それであれば、ぜひとも実施したい。

【A 委員】

予算の話については、今までの第 2 期や第 3 期でも結構話題として出ている。町長も会議に出席されたりして、次年度の予算について、必要であるという、その必要性がきちんと説明できるのであれば、予算は出しますよとおっしゃっていた。その辺りはタイミングとその必要性、なぜこういうものをやるのか、ということきちんとストーリーを作ることができれば、実現するのではないかなと思う。あとは、軽井沢の中には、芸術性や文化などに関わる相当いろんな素材ある。そういうものを生かしたやり方というのできるのではないかなと思う。ある程度お金もかける部分は必要もあるが、素材は結構いっぱいあるので、そういったものを出来るだけ生かす。人材にしても、他の文化的なものにしても、軽井沢だからこそ持っているものだと思うので、そういったものを生かしたような何かのイベント、実際は芸術祭でも良いと思うが、そのように軽井沢らしく出来れば良いのかなと思う。

【会長】

軽井沢ショー祭もいつも 8 月 1 日である。ちなみにその予算の提出というのは具体的にいつ頃までにということは決まっているのか。

【事務局】

期日の提示は受けている。

【会長】

今日の時点で予算がいくらという決定は難しいので、予算についてはまたご相談させていただきたい。

基本的にこのグループ1としては、100周年なりショー祭なり、何か軽井沢のイベントにくっつける形で、共同で何か我々としてのイベントを開催していくという方向性でよろしいか。

【C委員】

あと先ほど【A委員】もおっしゃっていたのだが、今のイメージとしては新たに誰かを呼んで絵を描いてもらうとか、建物を作るとかというよりも、既にあるもの、例えば堀辰雄記念館も町内にあると知っていても行ったことがないとか、どういう展示が知られていないということもあると思うので、そういった方々に対して、面白い解説員を呼んできて、新しい楽しみ方を紹介してもらうなどの方法があると思う。他にも、ありがちではあるが、町内にある美術館をスタンプラリーで全部訪れて回る企画など、既存の施設や既にあるものの新たな魅力を発掘するという方が、特に100周年というのに合わせるのであれば、理念として合致しているのではないかと思う。新しい観光客の人にも訴求になると思うし、町に住んでいる人にとっても、例えば東京の人が東京タワーに行かないというのと同じで、自分たちの町には誇りになるものがこんなにあるんだと思えるきっかけになると思う。しかしそれはあまり道徳的にならずに、面白い芸術家のような人たちにその魅力を紹介してもらうとか、多角的に既存のもの魅力を発見するという方がなんか私は楽しそうだなと個人的には思う。

【A委員】

私も先ほど言っていたいわゆる軽井沢の宝、そういった財産を活かすということは非常に重要だと思う。今、少し話に出たが、美術館にしても最近すごくたくさん出来てきて、元々の美術館もある。そういうものを今後何かを繋げるような、今【C委員】がおっしゃったようなことで、それぞれの美術館で面白いことをやるなど、誰もが楽しめるようなものにするのも一つであろうし、他の文化的な遺産もそうである。何かそういう軽井沢らしい、軽井沢の地域的な財産を生かせる

ようなイベントに繋がられると良い。その他で芸術ジャンルというと音楽、それから何か文化的なものということになるのではないか。あとは、先ほど言ったように、いろんなアイデアが出せればよいのかなと思う。

【会長】

今回は、芸術祭を開催するという方向性で一致したということで、次回、詳しい具体的なもの、例えば、いつ開催するとか、予算だとか、実施内容について、次回の会議で話し合っていければと思うが、事務局としてはいかがか。

【事務局】

そうするとテーマに沿ったものとしては、「何かイベントを実施する」という方向で「新しいコンテンツを作る」という認識で良いか。基本会議がどういう議論をしているのかということに関しての発信は、特には考えていないか。議論の内容を発信して「こういうことを考えている」ということを住民の方へ共有しながら進めるのか、それとも「こういうふうにやっていきます」ということで発信をしていくのか。そのあたりをどうするのかと思う。

【C委員】もおっしゃっていたと思うが、議事録について、議論の経過が分かるよう堅苦しい内容になっているかもしれないが、公開を前提として実施してきた。それを変えてくというのは一つの方法としてありかと思う。町のホームページとは切り離して、独立してサイト管理をしているというのは、いずれ我々行政の手から離れてくことを想定してのことであり、駆け出しから現時点まで、行政が主導で管理している状態であるが、今後は皆さんと一緒に作りあげて、次の新しい（行政主導ではない）形に委ねていくということもできるように、という意味で独立したホームページを持っているということである。なので、その発信方法を変えていていただくというのは良いかなと個人的には思っている。（住民の皆さんに向けては）こういう発信の仕方が良いとか、こういう表現の方が良いとか、その辺りについては意見を頂きながら発信方法を変えることによって、我々の議論を届けていくというのも一つの方法であると思うし、議論していることを意見交換として共有する場を設けるというのも一つである。何かしら住民の皆さんと繋がるというところの機会を、どのようにして、どの頻度で作るの

かということも少し念頭に置いていただけると良いと思う。

【会長】

我々の意見の発信方法として、どういった形が良いのかということも含めて、今すぐに決めることは出来ないと思うので、先ほども少し触れたがプロジェクトチームで何か新しい発信方法を検討していくというのも一つの方法かと思う。また今回ではなく改めて考えさせていただきたい。

《グループ1のトークは以上で終了》

<グループ2>

メンバー：【副会長】【D委員】【E委員】【F委員】【G委員】(ファシリテーター)

【副会長】

先ほど全体で話してみて、第1期～第3期の議論があつて、1つの結論としての芸術祭ということを感じた。第4期の集まりの前に第1期～第3期の流れを理解、共有しなかったことには問題があつて、議事録からは読み取れない、読み取りづらい、それぞれの期の協議内容、提案、成果実績、検証、改善点、申し送り、総括、所感など記した報告書は当然あるものと思うので、しっかり確認したい。

【D委員】

芸術祭という場の作り方でないとより多くの人々を巻き込むのが難しいということもあつて、いろんな自治体が芸術祭を実施しているのだと思う。実施するには、実行委員会を立ち上げるなど、何か運営の母体となるものがあつて、その母体が資金集めや交渉を行うものである。そういった組織が必要になると思うので、風土フォーラムの連続的な流れがそういった母体になれば良いと考えている。母体がないとなかなか進まない。こういう風土フォーラムという場で行うからこそ、移住者だけでなく、町のいろんな人たちを巻き込んだ議論が深まりやすくなると考える。そういう意味で風土フォーラムは母体となる一番良い場所

と考える。仮に美術館が主催（母体）となれば、それは芸術祭としては成功かも知れないが、課題の解決にはならない。だからこそ、町の課題を創造的に解決する母体として、この風土フォーラムが機能すれば良いというのが私の考えである。

【F委員】

芸術祭という案にピンときている。今までの議事録も拝見しているが、防災や自然、交通という全てのテーマにおいて、アーティストがそれらのテーマを見て作品を提示することによって、新たな気づき生まれることもあるのが芸術の力であるし、住民の皆さんが町や暮らしに意識を向けていたり、未来に目を向けていたりなどのきっかけが作れる要素が（芸術祭には）たくさんある。私自身も芸術のプロデュース経験があるので、【D委員】がおっしゃったように人の巻き込みや資金繰りが必要なことも理解できる。関係するプレーヤーそれぞれにいろんな背景があることが重要である。だからこそ、風土フォーラムで芸術祭を実施する意味があると思っている。なので、最終ゴールは2年目を終えるまでに芸術祭を開催することである。準備もすごく時間も手間もかかるものであるが、次に繋がるものになると思う。本当に感性が鋭くて、いろんな角度から軽井沢を見て表現できる人が、軽井沢で作品を見たり発表したりすることで、たくさんの気づきが貰えて、それが未来に向けた軽井沢のブランドになっていくと思う。

【E委員】

【D委員】と【F委員】に同感である。「なぜ、芸術祭なんだ」ということを丁寧に合意形成することが重要だ。風土フォーラム第1期から第3期まで、交通、防災、自然環境、共創、society5.0、子ども、エリアデザイン、識者や他自治体の方々を交えたフォーラムの開催など、実に様々なことをやってきた。そこに至るまで、実に多くの課題の整理と議論をしてきた。第4期は、その集大成で、町制100周年に具現化する為に、委員会でより具体的な議論と実行が重要だ。

芸術には鑑賞と創作の2つがあると思う。軽井沢らしさをどこに出すのがポイントである。広告代理店やプロダクションに任せるのは簡単だが、軽井沢ら

しくないと思う。軽井沢らしさは何かという、おそらく各ステークホルダーが共創していくことだろう。そのプロセスも大事である。例えば世界的アーティストを呼ぶのか、町民主体でいくのか、などを今後の開催に向けたステップの中で徹底的にディスカッションすべきと思う。そのプロセスと実施が軽井沢ブランドにも繋がる。

【G委員】（ファシリテーター）

みんなが参加するための芸術祭というのを根本に据えておいて、そのための（「芸術」という）テーマであると共有しておくことが大事と考える。素晴らしい人たちの作品が鑑賞できる場というよりも、住民の皆さんが表現できる場とか、歌や劇など、表現するための芸術祭になると、自分たちがテーマに沿った表現を行うということが出来る。アーティストの作品を見て（現在の課題に対する）視点を変えることも良いと思う。（目的に沿って芸術祭を行うのであれば、）表現教育的な、自分の内側を表現することを促すようなイベントになればと思う。

【D委員】

軽井沢にゆかりのある人みんなに出演してもらおうというのが良い。例えば、塩沢で蛍祭りを主宰している【住民個人名】は、里山再生、多様な昆虫がいる自然環境を未来に残すべきだと考え、分かりやすく蛍と共生できる未来の創造をボランティアで行われていて、私は軽井沢をより良くするアーティストだと思っている。軽井沢で新しい価値を創造している、未来に繋がる共助・互助の場を創造している人を推薦し、軽井沢に拠点がある人たちを中心に形を作っていくという流れが良い。軽井沢に大きな貢献をしている人が知られていないことがもったいない。そういった人たちに関わって貰う芸術祭であれば、意義深いと考える。

【F委員】

気づきを得られるアーティストというのは、有名かどうかは関係ないと思う。

【D委員】のおっしゃるように、軽井沢でクリエイティブな活動をしている人は

既にたくさんいらして、発信している場所も人も点在している。それを繋げる役割としても、芸術祭は適していると思う。

【副会長】

芸術祭を実施することが出来れば、議論の場は広がると思う。各ステークホルダーがいろんな考えや気づきを得られるのかなと思う。ただし、芸術祭を開催するにあたっては、その先の議論を創出する仕掛けが必要かと思う。仕掛けを作って、何かしらの皆さんの意見を吸い上げたいと思う。

【D委員】

「議論」ではなく「対話」という言葉を使いたい。議論と言うと、正しさを決める場だと勘違いされてしまう。対話の場はお互いの理解を目的とした言葉であり、言葉ひとつで場のイメージが違ってしまう。

【F委員】

議論してフォーカスしていくというと、なにか“決着つけないといけない”イメージがある。時代や物事、化学変化によって変わっていくものがあるので、対話しながら続いていけば良いと思う。

【副会長】

確かに、「対話」というと、寛容性やお互いの尊重などにも繋がると思うし、さまざまなアイデアにも繋がるだろうと思う。

【F委員】

いろんな意見があって当たり前で、決着をつける必要はないと思う。「軽井沢のことを考えている人がこんなにいるんだ」とか、「こんなに軽井沢のことを愛している人がいるんだ」ということを感じる大切である。

【副会長】

不必要な意見というのはないし、少数派の意見の中にも大事なものはあると

思う。芸術祭の開催が対話に繋がっていけば良いと考える。

【E委員】

この芸術祭の開催が、町制 100 周年に合わせて出来れば一番きれいである。むしろ、絡めないといけないと思う。それがないと、芸術祭といっても唐突な感じがしてしまう。

【F委員】

学び（ラーニング）、子ども、など芸術祭の中にもキーワードがあると思う。

【D委員】

個人的にぜひやってみたいと思っているのは、美術教育についてである。日本で一番おもしろい美術の授業をやる先生を決める、『天下一武道会』のようなもの、『天下一芸道会』のようなものはどうだろう。芸術を敬遠している人は、教育段階で嫌になっている人が多い。そこで「芸術とはこんなに面白いんだよ」という好奇心を湧きたてる芸術教育ができる人を世界中から募ってオンラインなどでの講義やワークショップを受ける場を設ければ、誰もが芸術と親近感を持つ場になると思う。アイデア次第で、芸術の力で広く対話の場を設けることは出来る。

《グループ2のトークは以上で終了》

《グループトークを終え、全員がトークルームに集合》

【会長】

今、グループで話し合っていたことをまとめて、また詳しい内容については、次回会議で日程や予算などに具体的なことを話し合っていければと思っている。

グループ1の中では、まずそのイベントの開催日程については、来年の町制

100周年に合わせたタイミングで何かを開催していけたら良いのではないかという意見が出た。その何か新しく例えば何かモニュメントを作る、どなたかを呼んでイベントを行うとかいうのではなく、元々軽井沢にある素材、人材、財産、例えば8月に行っているショー祭や堀辰雄文学記念館など、元々軽井沢にある美術館や芸術のものを活用しながら何かイベントを行っていくことこそが、町制100周年にも繋がっていくのではないかという意見が出た。

また、イベントを使ってまちづくりに対する住民の関心をどのように向けていくのかというところを、ただ「面白かった」で終わってしまうのではなく、そういった住民の皆さんを巻き込んだ先のどこを目的に落とし込んでいくのかというところをもう少し具体的に次回会議の方で話し合えれば良いかなと思っている。【副会長】の方のグループはいかがか。

【副会長】

ちょうど同じような意見を頂戴した。

やっぱりタイミング的には町制100周年に絡めた形が一番綺麗じゃないかということで、そこに向けて準備をしていければ良いのではないかという意見が出た。それから何か母体となって資金集めるとか交渉などを進めていかなければいけないのだが、それがこの風土フォーラムで担うことが出来れば、例えば移住者の一部だとかいう形ではなく、町全体が参加してこそ良い芸術祭になるということでそういった形で進めれば良いのではないかというような意見である。実行委員会を組織してそれが母体となるという意見がある。

それから、参加者、アーティストについて、著名な方に限らず、やはり軽井沢に住んでいる方が良いという意見があった。“アーティスト”というのはいろんな形があり、文脈上ではアーティストとは呼ばれていないような方、例えば塩沢に【住民個人名】という方がいらして蛍保護の活動をされていたりするのだが、そういった方たちも含めて町民みんなで作りで作り上げることこそが、軽井沢らしさというのが出るのではないかという意見があった。それから、そこに関わる方、鑑賞する方だけではなく、賛同される方も、そこを押し上げていく、運営側も含めて、全員が手作りで作り上げることこそ軽井沢らしさが出るという意見である。それから、全員が参加するために、無関心層にもアピールするため

の仕組みを作り、それぞれが全体として関わり合うための芸術祭が良いのではないかなという意見が出た。

また具体的にはこれから、町制 100 周年に向けてということで、議論ではなく対話を進めていければなというふうに思う。大切なことだが、「議論」ではなく「対話」であって、どちらが正しいかではなく、それぞれの意見が不必要なものではないという考えのもとに、対話の場を創出させること、ただ芸術祭を見て終わりということではなく、対話のきっかけとすることが重要である。軽井沢において、美術に対して敬遠している人に対しても、美術ってこんなに面白いものなんだという、呼び水となるような芸術祭というのが大切なのではないかなという意見があった。

【会長】

追加で我々のグループ 1 では、芸術祭とは別の話として、先ほども少し話をしたが、風土フォーラムの議事録が今までは文章だけの形で出ているが、何か新たな形で多くの皆様に発信していける方法を、別で考えていけたら良いということも出てきた。それについてもまた今後の会議で話し合っていければと思っている。

今回の会議で、まずは町制 100 周年に向けてイベントを行うということで皆様の意見が一致したので、その方向に向けて進めていきたいと思っている。なので、次回会議にて、具体的にどういったことを行うのか、予算については先ほど、グループ 1 で少し話をしたのだが、(イベントの背景や内容が) 具体的になってくれば、風土フォーラムの活動として町へ予算要求を行うことも可能とのことである。もう少し皆様各自で(イベントの実施に向けた) 具体的なところのイメージを膨らませていただいた上で、次回会議にて話し合っていければと思っている。その上でそこで役割分担を行って、イベントに向けて進めていければと思っている。

その他、何か追加や補足でご意見などありましたらお願いしたい。

【副会長】

次回開催日は、目安で構わないが、2 か月後ぐらいになるか。

【会長】

予算の関係などもあるので、次回会議は来月9月に開催できればと思っている。タイトなスケジュールになるがいかがか。日程調整については、事務局でお願いしてよろしいか。

【事務局】

本日、この会議内で決めるのも一つの方法であるがいかがか。予算の関係でいくと（令和5年度の）当初予算にのせるのであれば、9月中の開催が良いと考える。例えば人件費がいくらで、委託費がいくらで、という形で説明が出来ることと、そもそも何のために実施するイベントなのかということが我々（事務局側）から町長に説明ができ、それが住民の皆さんにも説明できるということが大事かなと思う。その辺りが少しタイトなスケジュールではあるが、ざっくりでも良いのであった方が良い。

【会長】

承知した。次回開催については、もう少し具体的なことを話し合うので、模造紙や付箋などを使いながら、ワークショップ形式で開催していく方が皆様の合意形成が図りやすいのかなと個人的にはイメージしている。しかし、もちろんコロナの感染拡大状況にもよってしまうし、オンラインだと、通信システムの不具合や音声の乱れがあったりするので、イベントの具体的なことを決めるときは、リアル（対面形式）での開催でと思っている。その点について皆様いかがか。もちろん、もし、オンラインの方が良いということであればその方向で進行できるように事前に組み立てを検討することも可能である。

【G委員】（ファシリテーター）

【会長】がおっしゃったような、模造紙的なものや意見を書いた付箋のようなもの書き出してまとめていきたいということであれば、オンラインであってもJamboard（付箋型表示アプリ）を使って共有できれば、オンライン上でも（【会長】の想定しているワークショップの行い方を）疑似的にやることも可能だと思うのだが、いかがか。

《オンライン形式とすることとし、委員各位のスケジュール調整を行う。》

【金山委員】

では、9月28日（水）の17時からオンライン開催とすることとするので、よろしくお願ひしたい。事務局は本日欠席の【丸橋委員】へも連絡をお願ひしたい。

【事務局】

リマインドで皆さんに9月28日（水）の17時からということで事務局から連絡することとする。

【会長】

本日も、皆様遅い時間までご対応いただき感謝する。また、イベントについて皆様各自、イメージを膨らませていただき、次回会議に臨んでいただければと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【事務局】

Jamboard（付箋型表示アプリ）については、本日の（意見が貼り出された）状態のまま、とりあえず残しておくような形で良いか。もしくは、先ほど【G委員】（ファシリテーター）がおっしゃったように、投稿できるようなアイデアは編集できるようにしておいた方が良いのかなと思うがいかがか。

【会長】

そうすると、皆様先ほどのチャットに送られているURLを各自コピーしていただいて、上がったイメージやアイデアなどについて、こちらに載せていただければと思う。

では、以上とする。本日遅くまでご対応いただき感謝する。

3. 閉 会